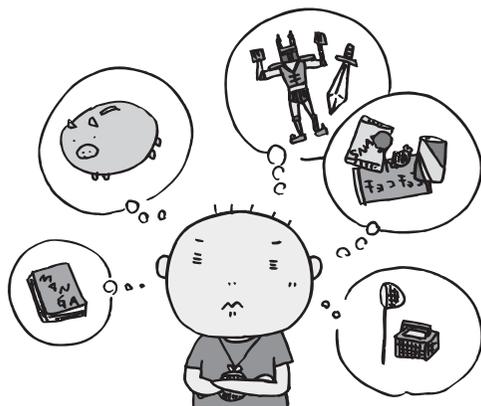


お金とくらしに 関する 幅広い調査 を 実施

このコーナーでは、毎回、金融広報中央委員会の最新の取り組みや活動内容を紹介してまいります。今回は、家計の状況や金融知識の認識度などについて幅広く世論調査やアンケートをしている内容をご紹介します。



**幅広く活用していただける
調査結果がいろいろ！**

金融広報中央委員会では、金融に関する世論調査やアンケート調査を実施して、皆さんが生活設計を考えていく際や、金融知識を学んでいく際の参考データとしてご活用していただけるよう、広く公表しています。まずは、「世の中の平均値はどれくらいなのかなあ…」などと気軽にデータを眺めてみてください。

また、これらのデータは、多くの専門家に、金融教育の現場や、講演会、家計経済分析などでご活用いただいています。さらに、金融広報中央委員会ではこれらのデータを、金融知識普及や金融教育へ

の取り組み方法を考える際の貴重な材料にしています。

以下では、いくつかの調査を具体的に紹介しましょう。

*これらの調査結果は、知るぽるとホームページにも掲載しています。

<http://www.shinporito.jp/finance/chosai/>

「家計の金融行動に関する世論調査」

この調査は、(1)家計の資産・負債や家計設計などの状況を把握し、これらの公表を通じて金融知識を身に付けることの大切さを広報すること、(2)家計行動分析のための調査データを提供す

ることを目的として、昭和38年から毎年1回実施しています。

現在は、2人以上世帯(訪問・郵送調査・8000世帯)と単身世帯(インターネット調査・2500モニター)に分けて、無作為に抽出した対象世帯やモニターの方に、ご協力をいただきながら調査をしています。最新のデータは、平成20年調査です。

例えば、世帯ごとの金融資産の保有額【図1】や、金融商品別の構成比、金融商品を選択する際に重視していること、家計運営の評価、老後の生活についての考え方などが分かります。

「金融に関する消費者アンケート調査」

この調査は、金融広報活動や消費者教育活動の参考とすることを目的として、成人個人の方を対象に、金融全般に関する知識レベルや認識状況等について伺っています。平成13年からある程度の年数を空けて実施しており、現在は、無作為に抽出した4000名の方に回答ご協力をお願いしています（訪問・郵送調査）。最新のデータは、第3回の平成20年調査です。

例えば、金融商品や金融制度に関する知識水準の自己評価、複利計算や各種制度に関する理解度、金融トラブルの

経験有無や対応、金融教育に関する経験・期待、金融に関する情報入手の方法・期待などが分かります。このうち、預貯金に関する知識水準の自己評価は、【図2】のような結果でした。

「子どものくらしとお金に関する調査」

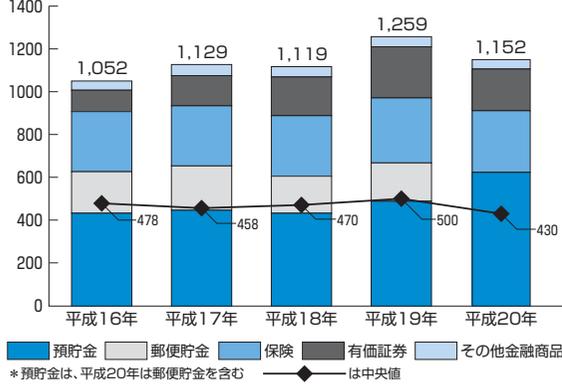
この調査は、学校における金融教育の支援活動の参考等を行うことを目的に、全国の小学生・中学生・高校生を対象に実施しているアンケート調査です。第1回調査は、平成17年に約9万人の子どもたちに協力していただいて実施しており、今後、ある程度の年数を空けて実施

する予定です。

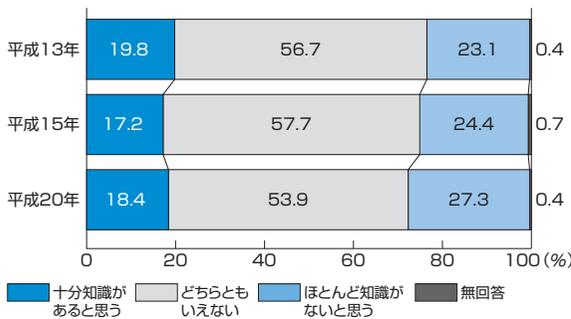
具体的には、この調査で、児童・生徒のお金にまつわる日常生活（おこづかい・お年玉・手伝い・携帯電話・インターネット利用など）に関して）や、お金に関する意識、金融経済に関する基本的な知識状況などが分かります。例えば、このうち中学生のおこづかい額は、【図3】のような結果でした。

当委員会では、今後も、こうした調査・アンケートの結果を幅広くお伝えするとともに、金融教育や金融知識普及に生かしていきます。

【図1】 金融資産の保有額（2人以上世帯、平均値）
～「家計の金融行動に関する世論調査」より～



【図2】 預貯金に関する知識水準の自己評価
～「金融に関する消費者アンケート調査」より～



【図3】 中学生のおこづかい額
～「子どものくらしとお金に関する調査」より～

